**指導者用デジタル教科書（教材）**

**音声テキスト**

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

目次

[P. 11　歌声 2](#_Toc76739240)

[P. 17　短調の音階と長調の音階 2](#_Toc76739241)

[P. 22, 23　弦楽器 3](#_Toc76739242)

[バイオリン 3](#_Toc76739243)

[ビオラ 3](#_Toc76739244)

[チェロ 3](#_Toc76739245)

[コントラバス 3](#_Toc76739246)

[P. 24　ト音記号とヘ音記号 4](#_Toc76739247)

[P. 25　パートの重ね方 4](#_Toc76739248)

[P. 30〜33　打楽器でリズムアンサンブル 5](#_Toc76739249)

[学習活動1 5](#_Toc76739250)

[学習活動3 5](#_Toc76739251)

[学習活動5 5](#_Toc76739252)

[学習活動6 5](#_Toc76739253)

[P. 30, 31　楽器の例 6](#_Toc76739254)

 [6](#_Toc76739255)

[クラベス 6](#_Toc76739256)

[トライアングル 6](#_Toc76739257)

[カスタネット 6](#_Toc76739258)

[タンブリン 6](#_Toc76739259)

[マラカス 6](#_Toc76739260)

[すず 7](#_Toc76739261)

[ウッドブロック 7](#_Toc76739262)

[ギロ 7](#_Toc76739263)

[サスペンデッドシンバル 7](#_Toc76739264)

[カバサ 7](#_Toc76739265)

[ボンゴ 8](#_Toc76739266)

[コンガ 8](#_Toc76739267)

[カウベル 8](#_Toc76739268)

[アゴゴー 8](#_Toc76739269)

# P. 11　歌声

「すてきな一歩」の始めの部分は、せんりつの動きが下がっていきます。音が下がっていくときは、こんな感じになりやすいですね。

せんりつの動きが下がっていくときは、声が上のほうに向かっていくような感じで、息の流れや、ひびきの位置に、気を付けて歌っていくといいですね。

# P. 17　短調の音階と長調の音階

これは、短調の音階です。「小さな約束」は、短調の音階でつくられています。では、きいてみましょう。

音にはそれぞれ、「イ」、「ロ」、「ハ」、「ニ」のような、名前がついています。これを「音名」といいます。短調の音階が「イ音」から始まっている場合、それを「イ短調」とよびます。

みなさんは、長調の音階を勉強したことを、覚えていますか？

長調の音階が「ハ音」から始まっている場合、それを「ハ長調」とよびます。

イ短調とハ長調の音をけんばんでひいて、それぞれの感じのちがいをべてみましょう。

# P. 22, 23　弦楽器

## バイオリン

これは、バイオリンです。

## ビオラ

これは、ビオラです。

## チェロ

これは、チェロです。

## コントラバス

これは、コントラバスです。

# P. 24　ト音記号とヘ音記号

ト音記号のにある低い音には、五線の下に加線がたくさんついていて、読みにくいですね。このをヘ音記号ので表すと、どうなるでしょうか。

加線が少なくなって、見やすくなりましたね。ト音記号ので低い音を表そうとすると、加線が多くなってしまいますが、そういうときには、ヘ音記号のを使うと便利です。

# P. 25　パートの重ね方

これから、「リボンのおどり」のパートの重ね方を工夫した例を、二通りします。音やひびきの感じに気をつけながらきいて、にするときの参考にしましょう。まず、例１を聞いてみましょう。

１回ごとに、ひびきが変化するように、工夫されていましたね。では、例２を聞いてみましょう。

終わりに向かって、だんだん盛り上がっていく重ね方をしていましたね。

# P. 30〜33　打楽器でリズムアンサンブル

## 学習活動1

最初に、いろいろな楽器を鳴らして、音のをかめます。楽器のや、音のひびきなどに気をつけながら、1から3のリズムを打ってみましょう。

## 学習活動3

次に、ひびきの組み合わせをかめながら、1から3のリズムを重ねてして、受け持つ楽器を決めましょう。

「ぼくたちは、いろいろなの楽器を組み合わせました。」

受け持つリズムを入れかえると、ひびきの感じが変わります。楽器の組み合わせや鳴らし方を、工夫してみましょう。

## 学習活動5

3人で重ねてしたものを、きいてみましょう。

## 学習活動6

３人が選んだ楽器とリズムを使って、音楽の仕組みを使いながら、自分たちのリズムアンサンブルをつくります。どこを工夫したのでしょうか。

「楽器をふやしていって、だんだん集まってくるイメージにしました。そして3人いっしょに重ねて打つリズムを、くり返すことにしました。」

「友だちどうしで、おしゃべりするようなイメージにしました。」

「そして、音色の組み合わせを楽しめるように、５回目と６回目の組み合わせを、もう一度くり返しました。」

「９回目からは楽器をへらしていって、終わりのふんいきを出すようにしました。」

それではつくったアンサンブルをきいてみましょう。

# P. 30, 31　楽器の例

これは、です。は、このあたりを軽くにぎるように持って、の重さを使って、やわらかく、ふり下ろすようにして打ちます。また、打つ場所によって、音がかわります。中心では低い音が出て、外側にいくにつれて、音は高くなります。きれいな音を出すときは、このあたりを打ちましょう。楽器の横に付いている、このスイッチを動かすと、ひびき線が、にくっついたり、はなれたりします。そうすることで、音色がかわります。

## クラベス

これは、クラベスです。かたい２本の木を打ち合わせて、音を出します。手を丸くして、その上に軽くのせ、真ん中あたりを打ちます。それでは、します。

## トライアングル

これは、トライアングルです。トライアングルは、このように持って、このぼうで音を出します。このように打ったり（～♪）、このように細かく打ったりします。

音を止めたいときは、トライアングルをこのように持って、止めます。

## カスタネット

これは、カスタネットです。カスタネットは、人さし指にひもを通して、このように持ちます。手のひらを上に向けて、カスタネットのはじのほうを、このように打ちます。

## タンブリン

これは、タンブリンです。あなに指を入れないように持ちます。タンブリンの真ん中を、このように打ちます。

## マラカス

これは、マラカスです。軽くふり下ろして、音を出します。それでは、します。

## すず

これは、すずです。すずは、このように持ちます。手くびを打ったり（～♪）、細かくふったりして、します。

## ウッドブロック

これは、ウッドブロックです。で打って音を出します。

右と左で音の感じがちがいますね。

## ギロ

これは、ギロです。このぼうを、このように持ち、こすって音を出します。それでは、えんそうします。

## サスペンデッドシンバル

これは、サスペンデッドシンバルです。シンバルをスタンドに固定してします。によって、いろいろな種類の音を出すことができます。ので打つと、こんな音がします。

打つ場所によっても、音が変わります。

毛糸まきのでたたくと、こんな音になります。

の種類や打つ位置を変えると、こんなにたくさんの音を出すことができます。自分の気に入った音をさがしてみましょう。

## カバサ

これは、カバサです。左手の手のひらに楽器をのせ、右手で持ち手の部分を軽くにぎって、このように、左や右に回して、音を出します。

強く回すと、アクセントをつけることができます。

## ボンゴ

これは、ボンゴです。大きさのちがう２つの太鼓が、対になっています。いすにすわって、両足ではさむようにえますが、ここではスタンドを使った打ち方を、しょうかいします。左側に小さいほうが、右側に大きいほうが来るように置きます。ひびかせて打つ方法と、ひびきを止めて打つ方法で、音を鳴らしてみます。きいてください。

ひびきのちがいが、分かりますか？

## コンガ

これは、コンガです。２台１組で使われますが、１台だけ、または３台〜５台で使われることもあります。

## カウベル

これは、カウベルです。楽器の細くなっている部分の半分あたりを、左手で、軽くにぎるようにして持ち、右手で持ったで、打って鳴らします。打つ場所によって、音色が変わります。きいてください。

それでは、いろいろなリズムで打ってみます。

## アゴゴー

これは、アゴゴーです。小さいほうのベルが、親指側にくるようにして持ちます。右手に持ったで、ベルのこのあたりを打って、鳴らします。

左手をにぎって、ベルを打ち合わせて音を出すこともできます。それでは、いろいろなリズムで打ってみます。